

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672700040		
法人名	社会福祉法人真愛の家		
事業所名	グループホーム真愛の家 恵の里		
所在地	舞鶴市字上安697番地36		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果市町村受理日	平成24年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672700040&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人のペースで生活していただける支援を大切にしている。ホームは開放的で自由に出入り出来るのでご利用者も自由に散策される。帰宅願望のご利用者に対しては、道中の事故リスク回避のため送り迎えをして午前中、自宅で過ごしていただく。このことはご家族に状況報告し共に考え支えている。ご家族の面会も頻回にあり、職員がご家族となんでも相談できる状況にある。行事にもご家族が準備から参加し職員共に楽しんで実施できるようになった。また、一段と重度化になり、日々の健康管理、見守りを怠らないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「穏やかで安らぎのある生活を目指す」という理念に沿って一人ひとりの思いを大切に利用者本位に穏やかに過ごすことができるように取り組んでいます。日常のよいリビングは天井も高く開放感があり、利用者は穏やかにゆったりと寛がれています。個別ケアにも力を入れており自宅で過ごしたいと希望される利用者や遊歩道まで行きたいと希望される利用者の送迎をしたり、ミサに参加される方の付き添いをするなど利用者の思いを大切に実現に向けた取り組みをしています。また玄関を開放し自由に出られるようGPSを利用するなど対応策を工夫しています。利用者とは日々散歩や買い物に出かけ地域の方と挨拶を交わしたり、茶話会を開催し地域の方々の参加を呼びかけるなど地域との交流が深まるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で地域に向けての取り組みとして納涼会を行い、恵の里職員も在宅職員と共に屋台を受け持ち、屋台、盆踊りをご利用者に楽しんでいただき職員も楽しみとなっている。	ホーム独自の理念は利用者が穏やかに安心して暮らせるようにとの思いが込められています。毎月の職員会議やケース会議で理念に沿った支援になっているかを確認したり、毎朝唱和することによって理念が浸透するよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭には事業所全体で取り組み近隣住民に参加を呼びかけ楽しんでいただいている。	近隣の方とは散歩や買物時に挨拶を交わすなど日常的に交流をしています。法人内の施設を訪問した保育園児との交流や、ゲーム、歌などのボランティアの訪問もあります。また事業所にて茶話会を催し地域住民に呼びかけたり、敷地内にある事業所全体の納涼祭には100名の参加があるなど、地域との密な関係が構築されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と共に認知症支援事業を立ち上げ2年目の今年度は校区に呼びかけ、年3回歌ボランティアさんが来られる日に茶話会を開催する。ご利用者と一緒に歌ってもらい、その後ホームの紹介をさせていただく。第1回には15名の参加があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の状況報告から外出が頻回なご利用者に対してのアドバイスを頂いたり、御身内の利用されていた施設での対応や行事の内容など報告していただき参考にさせていただいている。	家族代表、民生委員、市職員、施設長等の参加を得て2カ月に1回開催されています。ホームの近況や行事などの報告をし、家族や参加者からも、散歩時によくわかるように「恵の里」独自のジャンパーを作ってはどうかなど、多くの意見を貰い有意義な会議となっています。出された意見や要望は検討し運営に反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員1名と地域包括職員2名出席していただき現状報告し、情報提供していただいたりしている。また地域においての企画などには地域包括職員に協力してもらっている。	市職員が運営推進会議に出席しており、情報提供や、相談をしています。書類の提出などで役所を訪問したときや、電話等で気軽に相談できる関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はじめどこからでも出入りできる状態で転倒リスクの高いご利用者でも常に見守りのなか自由に行動していただいている。外に出られた時には転倒リスクの高いご利用者であれば職員も一緒に行動するよう心がけている。	身体拘束についての法人内外の研修があり、出席者がホームの勉強会や会議で伝達をし、話し合いをするなど全職員が理解を深めるようにしています。玄関は施錠せず利用者が自由に行動できるように一緒に出かけたり、そっと見守るなどの支援を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

グループホーム真愛の家 恵の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時は十分説明を行い、改定時にはご家族にお集まりいただき説明の機会を設け理解を求めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、状況報告以外にも行事など企画案に対しても出来るだけ気さくに相談できる関係を心がけ意見を頂いている。また、運営推進会議に家族会会長に出席していただき意見、要望、質問など聞かせていただいている。	面会時、家族会総会時、行事などに参加された時など、意見や要望を聞く機会が多くあります。出てきた意見は職員会議で検討し、行事では天橋立クルージングなどの実現に繋げています。またケアプランにも反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんなアイデアも気さくに言える雰囲気心がけ、提案があれば計画書、企画書を作成、職員会議において検討したうえで上申し承諾を得る。	職員は日々管理者に対して意見や要望が言いやすい環境にあり、出てきた意見は会議に諮り検討した上で計画書を作成し部長を通して施設長に提出し実施できるよう取り組んでおり、職員のやる気に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外勤務にならないよう配慮するとともに、時間外になった場合は超勤手当で対応、さまざまな企画もやりがいにつなげるよう出来る限り職員で検討し実行していくようにしている。また、休憩時間を実施出来るようお互い協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎的な介護技術研修後は現場で習得してもらい、理念は法人内研修で、また、さまざまな研修は要綱により職員に参加を促している。法人内研修は積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府内GH連絡会に参加し、交流、勉強会、相互実習受け入れなど取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々関わりの中で得た情報をケース会議などで検討し職員が共有していくことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談、連絡表や面会時に近況報告を行い、ご家族の思い等お聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	平均要介護度3.5で重度化しているなかでも、何とか出来る家事仕事を一緒にしていただいたり、出来る限りご本人の思いに沿って援助させていただくことを方針としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅で過ごしたいとの思いのある方に対して、常にご家族と相談したり、ご本人の思いを伝えたりし月2回外泊していただいたりしている。また、行事にはご家族に準備から参加を呼びかけ一緒にすることで職員と共に楽しめるよう図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みの美容院にお連れしている。しかし、ホームでの生活が長くなり、また重度化に伴い難しくなっている。	自宅での外泊の送迎や馴染みのスーパーや美容院へ出かけたり、カトリックのミサや年2回の聖母行列に参加しています。誕生月には、思い出のレストランや喫茶店にマンツーマンで出かけたりします。また親戚の人にも訪ねてもらうなど馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人穏やかに過ごしていただけるよう関わり、ご利用者同士の会話が難しくなっている中で楽しく過ごしていただけるよう、その時々々の雰囲気職員が支援している。		

グループホーム真愛の家 恵の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お元気なご利用者は家族と相談し、午前中ご本人の思いに沿ってご自宅で過ごしていただくため送迎を行う。その際、ドライブの好きな方にも同行していただく。	センター方式のアセスメントを基に日々の関わりの中で言葉や動作、表情から思いや意向の把握に努めています。個々の思いをケア記録に追記し、ケース会議で本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを一部使用しご家族に記入していただいたり、ご家族の面会時にお聞きすることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩に出かけられる方、自宅に帰られる方、敷地内事業所に行かれる方、それぞれ思いのままに生活していただくため、また日々の身体状況把握に関する検討会議、日々の検討などは連絡帳に記入したり共有することを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との懇談の機会を設け担当職員が現状報告し、ご家族の意向も傾聴し取り組んでいる。	利用者や家族の意向を取り入れた介護計画を作成し利用者の日々のケア記録を基に、モニタリングと評価を行っています。月1回担当者の意見を聞き、ケース会議で本人の現状に合っているか検討し、状況に応じて随時計画の見直しを行っています。変化が無ければ、1年毎に見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	長期、短期目標、援助内容などに対する記入を行い、ケース会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

グループホーム真愛の家 恵の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医、歯科、皮膚科にかかっている方もある。職員が付き添いが可能であればご家族の付き添いもお願いし職員と共に受診することもある。	入居時に家族と相談をし以前からのかかりつけ医を継続するか話し合っています。月2回かかりつけ医の往診があり、緊急時には職員が付き添い受診し、内容を家族に知らせる等の連携を図っています。法人の協力医は24時間連絡可能となっており、法人内の看護師との連携体制もできています。訪問看護師に、日々の健康管理もしてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化があればかかりつけ医に連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況によっては、主治医の指示に従い検査等診察に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を伺い、出来る限り意向に沿えるようまた、グループホームでの限界などもお伝えしている。	今までに医師や看護師と職員が協力しながら多くの看取りをした経験があります。重度化してきたときにホームで出来ること出来ない事を説明し、入院も視野にあること等、家族と話し合いを重ね、意向の確認をしています。できるだけ意向に沿えるよう職員間で話し合い、方向性を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時について見るところに張り出し、会議などで確認している。また、個々にマニュアルを手渡している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の避難訓練に参加、ホームでも夜間を想定した避難訓練を実施している。	法人全体で消防署立合いの下、年1回昼間想定で、ホーム独自では夜間想定で避難訓練を実施しています。今年度はスプリンクラーも設置を行っています。	運営推進会議等を通して話し合いをしたり、訓練開催時に近隣の方へ声かけを行うなど、協力が得られるような働きかけをされてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で職員同士気づいたことは指摘しあったり話し合ったりして意見交換している。	法人内外の研修に参加した職員が伝達研修を行い、ケース会議や職員会議で気づいたことを話し合い利用者の尊厳が守られるよう言葉遣い等配慮しています。不適切な言動が見られたら、その都度管理者や職員が注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い、ゆっくりと時間をかけて説明したり意思確認を行うように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状況で個々の思いを大切に、自由に出かけられたり、食事もご本人の体調、起床にあわせ食していただいている。出来る限り自由に過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で歩いて理髪店に行かれたり、ご本人が選ばれる服装で、時節に合わない場合は一緒に選んだりして個々に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	偏食の方には、常備食を用意して考慮している。盛り付け、茶碗洗いなど出来る範囲内で職員と一緒にしていただいている。	朝、夕食は法人から届けられますが、昼食は利用者の希望を聞き献立を決めています。時にはひな祭り弁当なども作り、利用者から喜ばれています。個々の状態に合わせた食事形態にも配慮されており食べやすさも考えた食事が提供されています。利用者も配膳や食器洗いなどに加わり、職員と一緒に会話をしながら楽しい時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に沿って食形態を考えたり、偏食の方には代替を準備していたり、水分補給も食事以外の補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄、うがい、歯磨きなど個別ケアを実践している。		

グループホーム真愛の家 恵の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿測を行い適したパット使用したり、排泄チェック表を記入し誘導、声かけをおこなう。車椅子の方は昼間ポータブル使用していただいている。	排泄チェック表や表情、動作などから利用者の思いを読みとり個々の排泄リズムに合わせて声かけや誘導を行っています。多くの種類のパットを用意し個々の尿量に合ったものを利用できるだけトイレで排泄できるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入し水分補給に努め、場合によっては乳酸菌飲料やヨーグルトをデザートにしたり、朝食後のトイレ誘導や寝たきりの方でもポータブルに座っていただくことで自然排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される時間に利用していただいているが、ご本人からの入浴希望がなく間隔をチェックしながらご本人にお勧めしている。	15時から18時までの間で、週2回から3回を目途に入ってもらいますが、希望があれば毎日でも可能です。拒否傾向の方には職員を替えたり、声掛けの工夫や時間を変える等して入ってもらえる様に支援しています。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を入れるなど入浴が楽しいものになるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、2時間ごとに安否確認し不眠であった場合、朝もゆっくり起床していただいたり、昼寝していただいたり、その時々を状況把握し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より個々の服薬リスト帳を作り、職員誰もが確認できるように保管場所を設けている。変更の場合は看護師の説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事を手伝っていただいたり、ドライブが好きな方には機会を作り短時間でも同行していただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で出かける事が難しくなっており、個別、あるいは少人数で行なっている。日頃の思いを聞きご家族とも相談し出かけられたりしている。近くに遊歩道がありそこを歩くのが好きだといわれる方があり途切れるところに車でお迎えに行き乗車していただいている。	毎日、買い物や散歩、ドライブに出かけています。季節毎に椿、桜、藤、コスモスなどの花見や、紅葉狩りに出かけています。家族に相談し協力を得ながら天橋立のクレージングに行ったりもしています。出来るだけ外気に触れ刺激を受けたり、季節感を味わうことができるように支援をしています。	

グループホーム真愛の家 恵の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人だけご自分で所持されており自販を利用されたり、散髪に行かれたりされている。職員が管理させていただいている方に対しては、ご本人の好みを考慮したり、選べる方は同行で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に所持されている方があり週2～3回夕食後家族からのコールがあり楽しみにされている。葉書が毎月届く方には読んでいただいたり、書くことが困難になられているので一緒に作成することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日を遮るため窓に遮光シートを貼ったりすだれを利用したり、鉢植えを置いたり、室内温度もこまめに調節したりしている。	窓が大きく、天井も高い広いリビングには、季節の花鉢やシスター創作の花飾り等があり、童謡のDVDを見ながら口ずさむ等ゆったりと寛げる空間になっています。ひとりになったり、皆で話をしながら過ごしたいなど個々の利用者の思いに合わせて過ごされるように、椅子やソファの配置に工夫をされています。対面式キッチンでは、美味しい香りが漂い、家庭的な雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係を考慮し、テーブルの配置には特に気を配り、また季節にあわせたりと状況によって工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族がベットカバーを持ってきてくださったたり、観葉植物を持ってこられたり、家族写真を飾ったりご家族の思いに沿うよう心がけている。家で使用されていた鏡台を置かれている居室もある。	大きな花の絵の表札が、個々の部屋の目印になっています。自宅で使い慣れた鏡台やテレビ、位牌や写真等も持ち込まれ、家族の思いに沿うように配置し居心地良く過ごせるような配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札はもちろん、張り紙をしたり工夫している。また、段差を作らないようにし、所々に椅子を置き休憩、くつろげるようにしている。		